



幼虫たちのかくれんぼ

かくれる 見せる 幼虫の色とかたち

飛ぶこともできず、餌となる植物の上でもっぱら食事の幼虫は、鳥などの捕食者のかっこうのごちそうです。

そこで、なんとか食べられない工夫をしています。アゲハの仲間の幼虫は、小さな頃は、主に黒い小さなかたまりの姿をして、鳥のフンに見せかけます。鳥の目に入っても、さすがに自分のフンではおいしそうには見えません。やがて、丸々太った幼虫は、食草の葉っぱに隠れるような色合いに変化します。体の大きさにあわせて、動きもダイナミックになり、移動範囲も増えるので、目立ちやすいからでしょう。そして、動けないサナギは、なるべく周囲の色や形にとけこんで、目立たないように葉や枝の影にかくれています。それでも、ハチやアリなどの昆虫や地面に住むトカゲなどには、見つかってしまいますので、危険がいっぱいです。

食草をたくさん食べて、無事、チョウチョになるには、色にもかたちにも知恵がつまっているのです。

ナミアゲハとキアゲハ、どちらも小さいうちは、鳥のフンのまねをする擬態型です。その後大きくなると、ナミアゲハは食草のミカンの木にとけ込み、キアゲハはアシタバのような繊細な背景にまぎれる隠蔽型に変わります。

何かにまねする 擬態型

周りにとけ込む 隠蔽型

キアゲハ



ナミアゲハ



鳥のフンに化ける 食草にかくれる 周りにあわせる

毒をもつウマノスズクサを餌とするジャコウアゲハは、その姿を見ても鳥は襲ってきません。おいしくないよとかたちが教える警告型です。

見たくて知らせる 警告型

ジャコウアゲハ

